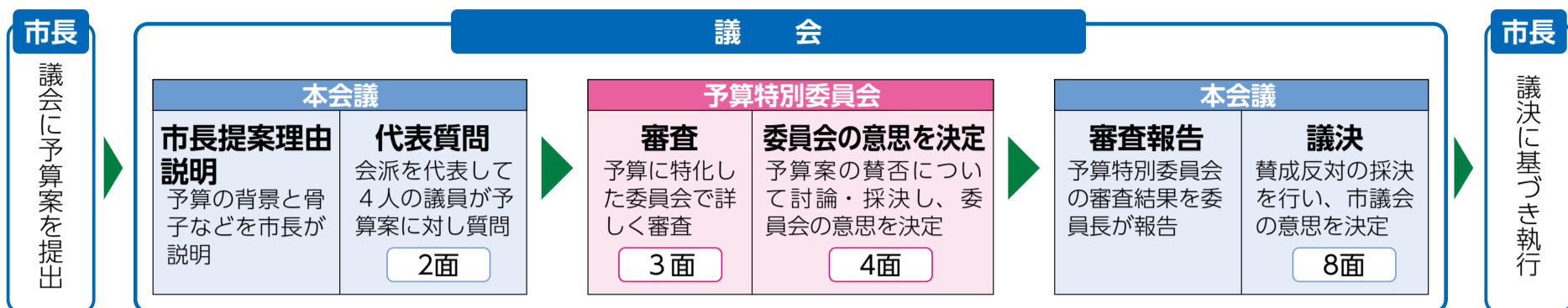


# 予算審議の流れ

市長が作成した予算案を、議会が以下の流れで審議しました。



## 代表質問

～令和5年度の予算案について、会派を代表して市長に問う～

●二次元コード 市議会ホームページ上の各議員の質問動画へアクセスできます。

### 公共施設整備基金の積立目標／立3・1・34号線の南伸



頭山 太郎 (たちかわ自民党・安進会)

**問** 公共施設の整備や耐震補強、改修等のために積み立てている公共施設整備基金の令和4年度末の残高見込みが約180億円となっていますが、基金の積立額の目標をお示しください。

**答** ZEB対応等の要素を加味した有形固定資産減価償却累計額の補正額に、公共施設の新規建設モデルにおける一般財源相当分である20%を乗じた金額、約350億円を積立目標額とすることを検討しています。

**問** 都市計画道路立3・1・34号線は立川市役所の西側を南北に通る道路ですが、富士見町七丁目まで南伸することについて、現在の進捗状況と今後の見通しなどについてお示しください。

**答** 本路線の南伸について、昨年都知事との意見交換会で直接要望しました。また、都が策定したTOKYO強靱化プロジェクトのリーディング事業として位置付けられたため、早期事業化を申し入れていきます。

**その他の主な質問項目** ▷放課後子ども教室「くるプレ」▷高校生までの医療費の無償化▷新学校給食共同調理場整備運営▷脱炭素社会の実現▷オスプレイの飛来▷クリーンセンター運営▷行政のデジタル化

### L P ガス料金へも支援を／少子化への取り組みは



山本 みちよ (公明党)

**問** 物価高騰に対し、国の電気・都市ガス料金の負担軽減策が始まりましたが、L P ガスは市民に対する直接的な負担軽減策がありません。地方創生臨時交付金を活用した支援策等について、市の考えは。

**答** 今般、電力・ガス・食品等の価格高騰に対し、家計への影響が大きい低所得世帯への給付金事業を行ったところであり、これらも踏まえ、引き続き、国や都の動向を注視しながら、適宜対応を検討していきます。

**問** 現在の日本の最大の課題は、少子化・人口減少です。安心して出産・子育てのできるまちを目指す本市として、少子化の問題をどう捉えていますか。また具体的な令和5年度の市の取り組みについて伺います。

**答** 喫緊の課題と捉え、子育てしやすい環境をつくるため18歳までの医療費助成、妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援、医療的ケア児の保育支援、子育て・健康複合施設の建設等に取り組みます。

**その他の主な質問項目** ▷政策の優先順位付け▷市長公約の達成度▷重層的支援体制整備事業▷専門職の積極的活用▷旧清掃工場の解体事業▷水道水の安全性▷入札制度の在り方▷教育支援センターの強化

### 核兵器廃絶の推進を／学校給食の無償化に向けて



浅川 修一 (日本共産党)

**問** 自治体が平和について発信することは大切です。市長が加盟している平和首長会議は、核兵器廃絶を最重要課題としています。市として核兵器禁止条約の締結を推進する取り組みが必要と考えますが、見解は。

**答** 令和2年11月に、平和首長会議国内加盟都市会議として、核兵器禁止条約の締結について国に要請を行いました。今後も、核兵器のない世界の実現に向け、平和首長会議と連携して進めていきたい。

**問** 市は、学校給食法により食材は保護者負担と説明しますが、現在物価高騰分を補助している根拠は。この補助が可能なら、無償化も法律上可能と考えますが、当面2割補助等、具体化できないのか伺います。

**答** 現在の補助は給食の質や量を確保し、値上げを行わず保護者負担増を回避するため、食材の物価高騰分を補助するものです。給食費のあり方については、今後も国や都、他自治体の動向を注視していきます。

**その他の主な質問項目** ▷オスプレイ▷生活保護基準の引き上げ▷子どもの権利条例▷子どもの貧困対策▷学校支援員の増員▷国民健康保険料の軽減▷補聴器補助▷ジェンダー平等▷脱炭素社会

### 地域防災計画の見直し／子育て支援策の拡充を



わたなべ 忠司 (立憲ネット緑たちかわ)

**問** 都による地震の被害想定の見直しでは、本市は震度6強以上のエリアに分類されました。コロナ禍で停滞した地域防災への対応、住民の意識向上、見直しに当たっての新たな考えによる取り組みや周知方法は。

**答** 各自治会、防災関係機関と連携し、市民の防災意識や防災力の向上を図ります。新たな対策として、避難所運営に感染症対策を取り入れ、避難所運営組織や防災訓練の場を通じ、市民に周知していきます。

**問** 若い世代から、子どもを産み育てやすいまちとして選ばれ、住み続けたいと思われるために、具体的にどのような支援策に力を入れていますか。近隣自治体が未実施の支援策も視野に入れていくべきです。

**答** 4月から高校生等への医療費助成を開始するほか、放課後子ども教室くるプレの拡充、医療的ケア児の保育支援に取り組みます。また、子育て・健康複合施設の令和7年度の供用開始に向け、建設に着手します。

**その他の主な質問項目** ▷障害者の福祉▷再生可能エネルギー▷プラスチックごみの削減▷公園のあり方▷オスプレイ▷PFAS▷ヤングケアラー支援▷コミュニティ・スクール▷スクールソーシャルワーカー

## 令和5年度注目の予算

### ●立川市クリーンセンターたちむにいの稼働

令和5年3月1日から本格稼働を開始。旧清掃工場は解体工事に着手。また、クリーンセンターで作られる余剰電力を本庁舎及びリサイクルセンターで利用し、脱炭素社会に向けて取り組む。

### ●新学校給食共同調理場の運営開始

令和5年度の2学期から運営を開始。現共同調理場と新共同調理場の2か所で、市内の全小・中学校の給食を調理する。

### ●放課後子ども教室の拡充

児童の安全・安心な居場所として、既設の3校に加え、五小、六小、十小、南砂小に新たに設置。愛称は公募により、「くるプレ」に決定。

### ●高校生等医療費助成

令和5年4月から助成を開始し、さらに10月からは義務教育就学児医療費助成とあわせ、保護者の所得制限と自己負担額を撤廃し、高校卒業までの医療費を無償化する。